Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

152

手あそびうたの研究 VI I

― 手あそびうたを通して、3歳児と信頼関係を深める試み ―

○毛塚　陽子　　木目田　芳美　　林　　美保　　二階堂　邦子
（あゆみ幼稚園）（佼成学園幼稚園）（佼成学園幼稚園）（日本女子体育短期大学）

1．目的

3歳児の保育園での生活は、小さいクラスのグループから大きいグループへの保育室の移動、年長児と共に園行事に参加するなど、6年間の園生活において1つの転換期を迎える。

幼稚園の3歳児は、親から離れ、はじめて集団という社会で生活をはじめる転換期であり、共に3歳児は希望と期待と不安を持ち、園生活をスタートさせる。

園生活の中で、3歳児は生活習慣、ことば、運動能力の社会的な基礎ができ、自我が顕著にあらわれる。それをふまえて、保育の現場では、発達のねらいを「先生と友達と仲良くあそび園生活を楽しくすごす」ことにおいている。子どもの成長において、この3歳児と保育者の出会いは大きい。

この3歳児と保育者の信頼関係を深め、自分のことを認めてくれる人の存在を確かめ、そのことが人を信頼し、友だちとあそび、より豊かな人間理解の基をつくっていくと考える。

そこで手あそびうた「げんこつ山のタヌキさん」を調査曲に選び、3歳児と保育者の信頼関係を深める方法を試みた。

このうたは保育の現場では、保育者と子どもが向きあって、詞にうたわれている動きをそのままあて振りする型で伝承されている。そこで、このうたの詞を分析した結果、2つの視点（大人の視点と子どもの視点）でうたわれていることに着目し、今まで伝承されていない方法、すなわち、大人の視点で実際に3歳児をおんぶし、だっこするあそびでおこなった。

3歳児が保育者と1対1でスキンシップをしながらあそぶことで、何を保育者に期待しているのか、何に興味を示すのか、手あそびうたを通して、3歳児との信頼関係を深めた方法を報告する。

2．方法

（1）調査期日

平成9年10月～平成11年1月

（2）調査対象者

3歳児

男児　136名
（幼稚園児　125名
保育園児　11名）

女児　136名
（幼稚園児　127名
保育園児　9名）

計　272名

（3）調査方法

クラス担任による「げんこつ山のタヌキさん」の実践と子ども一人ひとりへの聞き取り調査

①手だけであそぶ

②実際にだっこおんぶをしてあそぶ

（4）調査内容

a．子どもの名前　　b．生年月日

c．家族構成　　d．ジャンケンの理解

e．ジャンケンで出す最初の指の型

f．手だけで行った時の子どもの好きな所

g．実際に、だっこおんぶをした時の子どもの反応

h．fとgのどちらに興味を示すか

i．おんぶのされ方

（5）分析の視点

子どもの好きな手あそびうたを追及する為に継続研究をしている。今までの研究結果から、子どもは交遊型の手あそびうたにスキンシップの加わる動作に強い関心を示すことがわかっている。

そこで、親の愛情に包まれていたい時期でもありその一方で自立の一歩を踏み出し始める時期でもある3歳児を対象とし、交遊型の手あそびうたである「げんこつ山のタヌキさん」の動作を次のように分けて分析した。

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

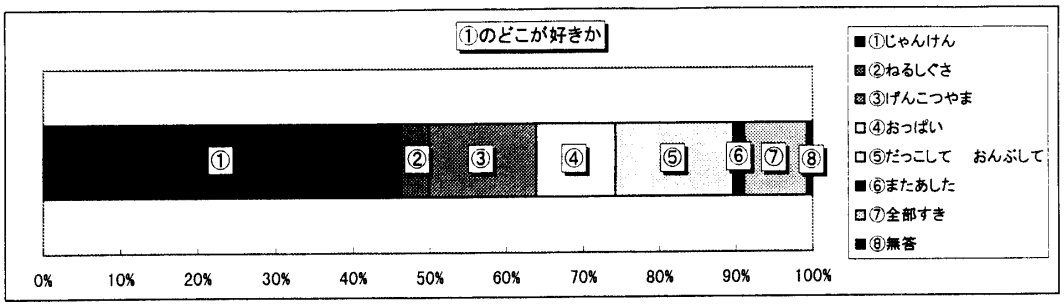

図１ 手だけの動作

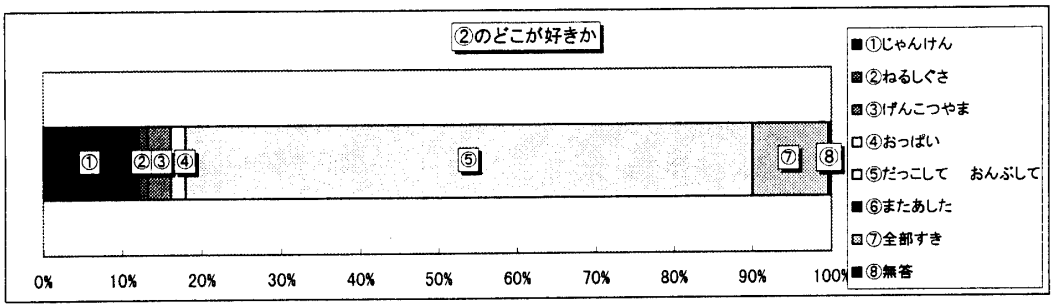

図２ 実際にだっことおんぶをした場合

子どもの視点

最初のフレーズの　げんこつ山のタヌキさん、おっぱいのんで、ねんねして

大人の視点（大人があやす）

後半のフレーズの　だっこして、おんぶして、またあした➜ジャンケンあそび

3．結果および考察

（1）ジャンケンの理解について

グー・チョキ・パーのどれか一つを出すことはできる。勝ち負けの理解は、６９・９％であり、能力の差が見られた。そこで月齢の違いをみるため　４・５・６月生まれをＡグループ（男児２８名　女児３６名）１・２・３月生まれをＢグループ（男児２６名　女児２５名）に分けて分析すると、理解度はＡの男児が、６４・３％　女児が６９・４％、Ｂの男児が４２・３％　女児が６４・０％となり、１・２・３月生まれの男児の理解度が低い。しかし、保育の現場ではジャンケンで順番を決めたり、１対大勢で一斉に使うことが多い。ジャンケンは２人以上で成り立つ遊びであり、そんなあそびを通して、子どもたちは、友だちの存在を意識していくことを踏まえ、保育者は、個々の興味や理解度の違いに目を向けて、ジャンケンあそびを楽しめるように配慮する必要がある。

（2）動作の変化による子どもの捉え方

①手だけの動作より３歳児の好きな所は、ジャンケン４６・３％、だっことおんぶ１５・４％、げんこつ山１４・０％であった。（図１）

②実際にだっことおんぶをした場合には、ジャンケンを好きと答える子は１２・１％に減り、だっことおんぶが７２・１％の高い支持を得た。（図２）

次に、①と②でどちらを好むかみてみると、①２０・６％②７１・３％その他８・１％となり、動作だけの時よりも、実際にだっことおんぶをした時の方が好まれていた。理由には、「先生の顔がよく見えてうれしい。」「あったかい。」「本物だから。」「お母さんみたい。」などの回答があった。

4．３歳児と信頼関係を深めるポイント

＊子どもに「愛しているよ」「好きだよ」という気持ちを、ことばで、スキンシップで伝える。

＊３歳児は、家庭での経験の違いや月齢の差が大きいので、一人ひとりの違いに目を向ける。

＊“赤ちゃんと幼児の間を揺れる”時期なので、保育者の安心基地としての役割が重要。

＊スキンシップは、心を許している人の間でこそ生きる。子どもが、保育者の笑顔で安心し、手のひらに伝わるぬくもりや、やさしい感触で気もちが安定するように、交遊型の手あそびうたを一緒に楽しむことが大切である。

NII-Electronic Library Service